パキスタン・カラチへ ポリオワクチン投与

溝畑正信 (大阪帝塚山RC)

2024年2月10日から14日の5日間、パキスタン・カラチでのポリオワクチン投与にチームポリオジャパンの一員として参加しました。大室すすむ (宝塚武庫川RC) を団長として、三木明ロータリー財団管理委員らパストガバナー 6名、現ガバナー 1名、ガバナーノミニー１名を含め総勢15名の日本のポリオ根絶リーダーたちが参加しました。私は、2019年11月、2023年2月に次いで3回目の参加です。

日本各地からバンコクに集まり、そこからカラチ空港に到着しました。空港では、アジズ・メモン ロータリー財団管理委員、アッシャー・アリ パキスタンポリオプラス委員会プロジェクトマネージャーの出迎えを受け、専属のカメラマンが同行し、私たちの今回の活動に対するパキスタンの意気込みを感じました。

活動は多方面にわたり、宿泊のラマダ プラザ カラチからマイクロバスで移動し、パトカーが同行してくれました。パキスタンは広大な土地で、年間5日間しか雨の降らない国の乾燥した道路を1時間から2時間の道のりを砂埃を挙げての移動が常でした。行動には常時警察官が小銃を携えての同行でした。

0～5歳の子供に対するポリオワクチン投与活動は、高速道路、鉄道駅、スラムでの戸別訪問で実施しました。

高速道路では、1日に1,000台のバスがパキスタン全国各地からカラチに入ってきます。それを軍隊が停め、バスに乗り込んでポリオワクチン投与します。ポリオ・ワーカーが1日6時間の4交代の24時間体制で実施し、1日に3,000人、1か月に90,000人,年間で100万人に投与、2012年からやっているとのことです。

カラチ・カントンメントン駅では、1日に上り下り合わせて10便列車が入ってきます。混むときには20～22便が入ってきます。プラットホームには人が溢れ、駅に到着した列車から降りてくる人の数はもの凄いものでした。バングラディシュやミャンマーからも人がやってくるとのことで、イスラムの同胞をパキスタンが受け入れているそうです。ポリオ・ワーカーは8時間の3交代、15人づつでの24時間体制でワクチン投与します。駅での取り組みは2007年から始まっています。これらの人の中で子供を見つけてワクチン投与を

しました。いずれも、私たち数名に、ポリオ・ワーカーが数名、その前後を小銃を持った警官に守られての行動でした。

戸別訪問でのワクチン投与は、マリア・タウン地区、サイト・タウン地区のスラム、ガダップUC地区（テントで暮らす住民、カラチの最貧のスラム地域）を、台帳を持った女性のポリオ・ワーカーが各戸をノックして入って行き、母親や父親，兄弟たちに抱かれた子供が出てくる、その子たちに冷蔵ボックスに保存したワクチンを2滴滴下、滴下が済むと左手の小指にマーカーで印しをつけます。ドアの壁には、訪問の記録をチョークで記載していました。テント村にもポリワーカーが入っていました。

また、私がグローバル補助金プロジェクトでかかわったミアプール・サクロでのウォータープラントの視察、今後のウォータープラントの設置予定地場所と学校の視察を行いました。学校は、子どもたちの教育と、ポリーワーカーの教育を実施しています。この学校でポリオワーカーのための白衣を贈呈しました。

ウォータープラント設置は緊急の課題で、補助金の承認を待てない、1か所1万ドルで設置できると、支援を申し出るロータリアンが何人も手を挙げました。

パキスタンでは、野生型ポリオウイルスによる発症例数は、2023年では6例、2022年では20例、2021年では1例、2020年では84例でした。アジズ・メモンロータリー財団管理委員は、パキスタンで2026年に発症を0にして、3年間0を続けポリオ根絶を宣言すると言っています。

パキスタンで、新たなプロジェクトの実施を目論んでいます。ポリオ根絶に向かって力を合わせて取り組みましょう。